

## 放散虫の生物地理に果たすベーリング海峡の役割

## Role of the Bering Strait in radiolarian biogeography

# 板木 拓也 [1]

# Takuya Itaki[1]

[1] 産総研

[1] GSJ, AIST

ベーリング海と北極海を繋ぐベーリング海峡（水深 50 m）は、太平洋の海水を大西洋に供給する通路として重要である。海洋生物についても、この海峡を介して両大洋間で交流していると考えられる。しかし、海洋プランクトンである放散虫に関しては、これまで十分な調査はなされておらず、その実態は明らかではなかった。本研究では、JAMSTEC 調査船「みらい」の MR00-K06, MR04-05, MR06-04 航海においてベーリング海峡を含むチュクチ海、ポーフォート海、ベーリング海の計 26 地点で採取された各層プランクトン・ネット試料をもとに放散虫を検討し、海峡を通過する放散虫の有無と各地域の群集の特徴について議論した。

- (1) ベーリング海峡の陸棚域には、沿岸水の影響を受けて放散虫が全く生息しない地域がある。
- (2) 北極海（チュクチ海・ポーフォート海）とベーリング海の群集は著しく異なり、共通種は僅かしか認められない。
- (3) これらの共通種は、世界の海洋に分布する普遍種で、深海に適応している、あるいは広深度性の分布を示す。
- (4) ベーリング海側に限って産出する種は、主な生息深度が 50 m 以深であることから、仮に沿岸水の影響が少なくても海峡を越えて北極海に移入することは困難である。